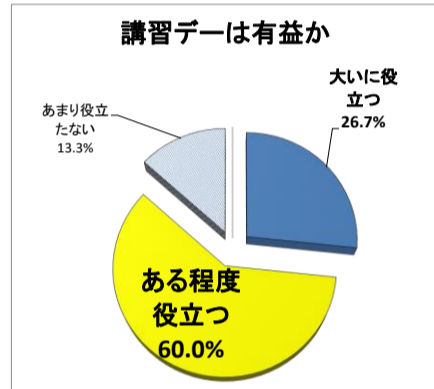
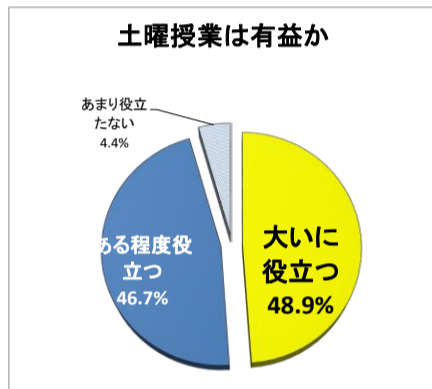
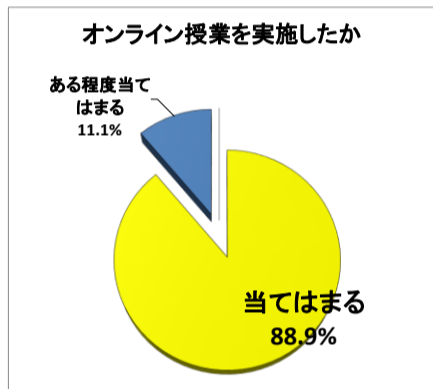
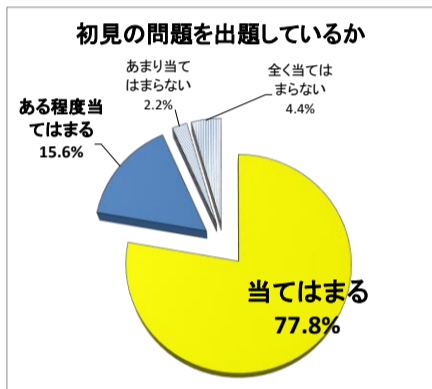
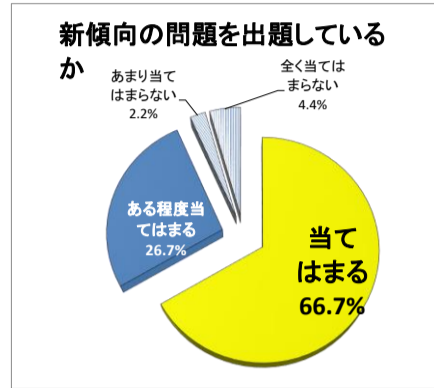
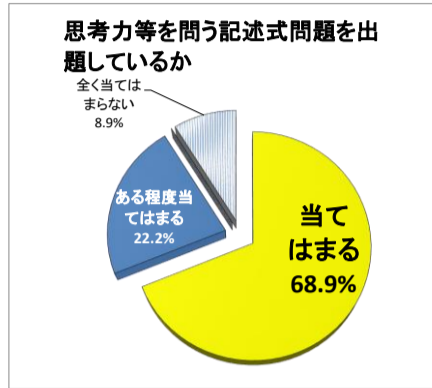
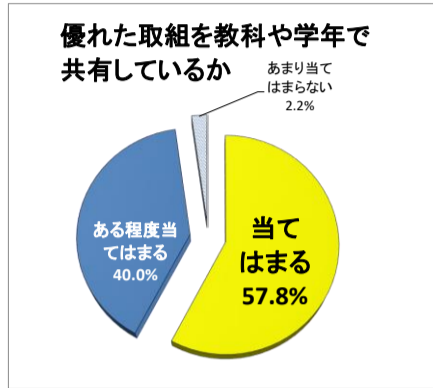
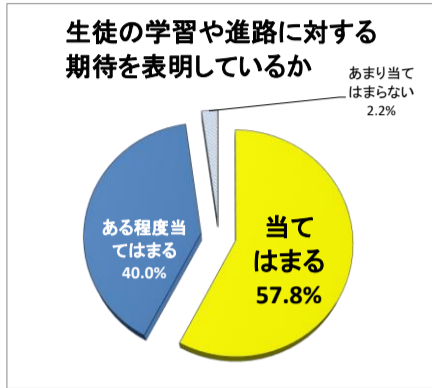
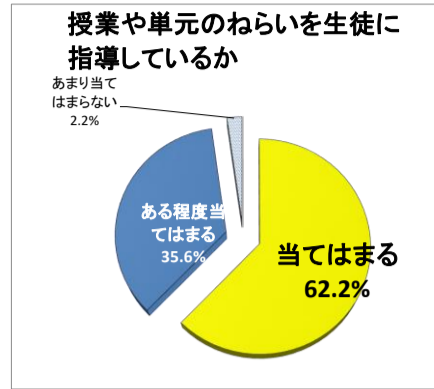
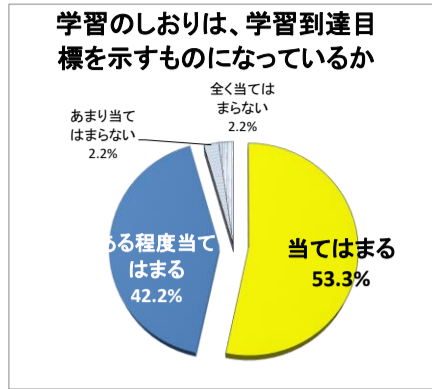
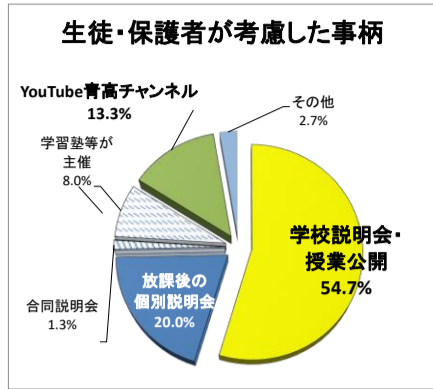
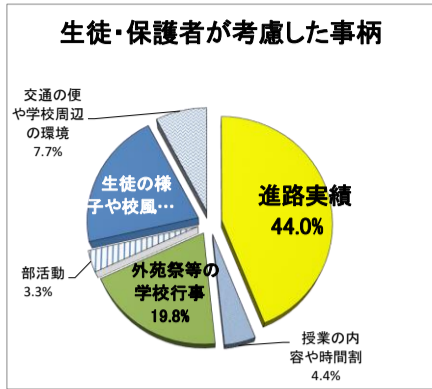


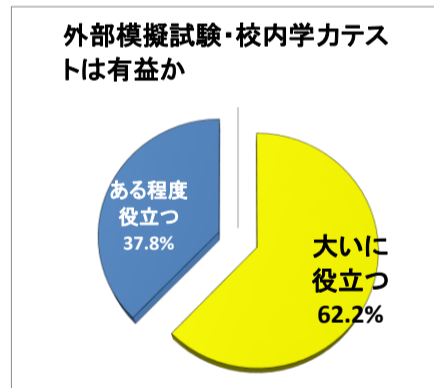
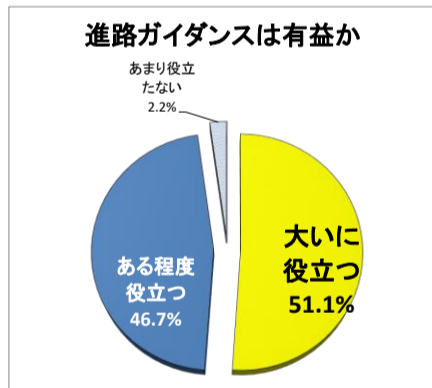
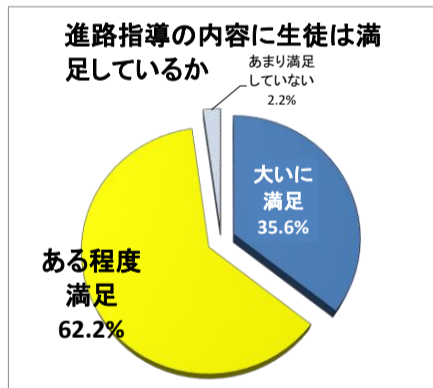
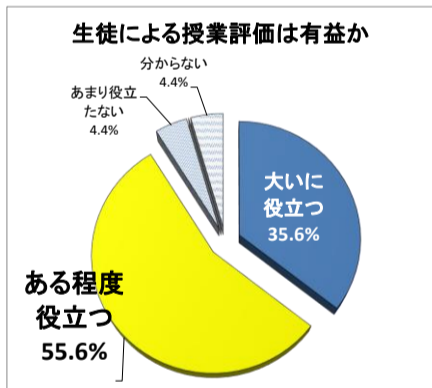
令和3年度教職員による学校評価

令和3年12月・令和4年1月調査



変則的に土曜日が入ってくるよりも、規則正しい生活リズムを作れるように、週休2日を確保した方が、課題等の時間を取れると思う。
臨時休校の対象日が土曜に設定された場合、考査までの土曜の時間が不足しクラス毎の進度への影響が大きいため、特別授業期間での集中講義(授業)による単位認定やオンライン授業等の活用も検討する必要があります。

土曜授業との境があいまいな変則的で内容も中途半端で、1・2年生にとっては何をすべき日なのかよくわからない効果を感じられない。
授業時間は足りている。部活動や課外活動に充てた方がよい。土曜授業がある以上は増やす余地はないため、不要だと思ふ。必要な講習は日頃から行なっている。



無記名で書くものは意見とは言えない。真剣に改善を望む時は名乗って主張するはずである。記名制にするべき。

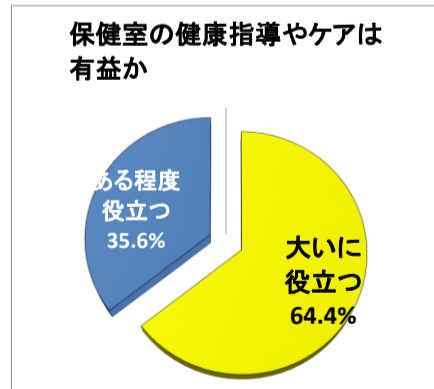
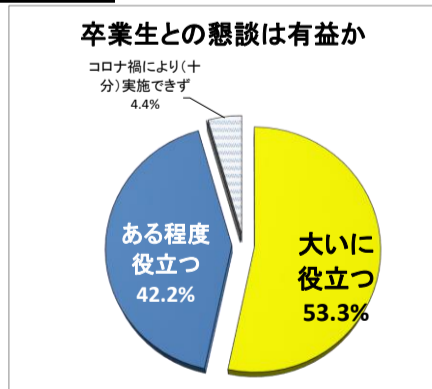
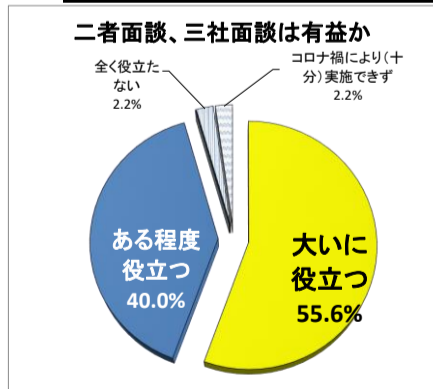
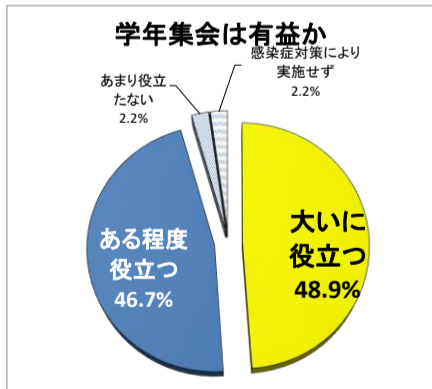
模試の判定データで進路指導をするのをやめる。卒業生に関するデータを丁寧に取り、青山高校としての進路指導を考えるべき。

業者の情報の受け売りではなく、学校独自の分析や指導がない。学校としてどのようなデータを取り、それをどのように進路指導に活かすのかを進路部で検討してもらいたい。

学校経営計画に位置付けている校内学力テスト等に基づいた進路指導の確立に向けて、教職員一丸となって取り組むようリードしてまいります。

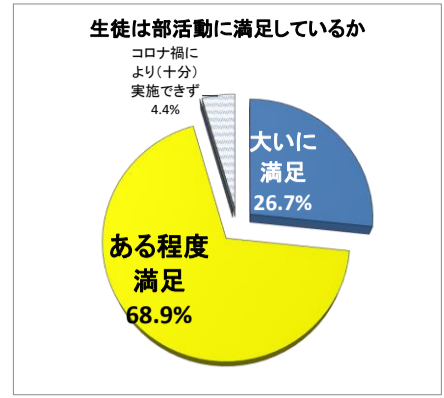
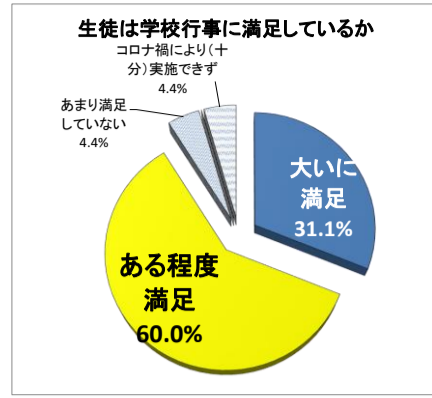
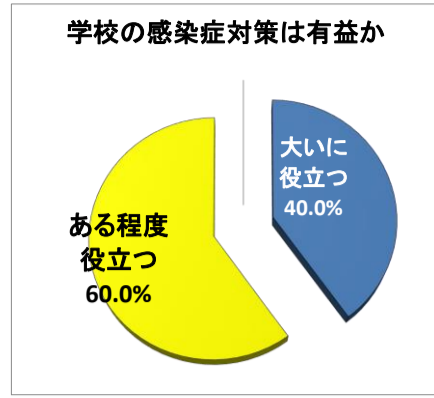
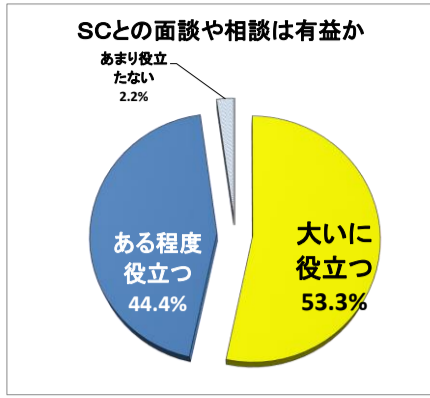
評価項目項目が少なく、具体性に欠けるため。評価項目を細分化する。前回の評価から何がどの程度上下したかをわかるようにする。などすべき。

評価項目は年々精査しています。また、学校運営連絡協議会の評価委員会で決定しています。具体的な提案があれば、職員として提案するよう促してまいります。



どの時期にどのような内容で生徒に情報をどういう形で与えるかを考えていない。生徒を育てる青函面が学年としてないから、役に立つともな話ができない。

世間話やABCDの模試判定の話をしている。教員ばかりが話をするのはなく、生徒に話をさせることや、生徒自身が考えて自己決定できるように指導する。



カウンセラーに相談している人数が限られているため、特に使っていない生徒は評価しようがないのでこの設問なら程度の回答になるのでは？

利用しないから評価できないという誤った認識を教職員がもっていることは残念です。その重要性についてさらに発信するよう心がけてまいります。

感染症対策は理解できるが、外苑祭における著作権に対応については都のガイドラインを超えた過剰な規制を設け、生徒の自主性を阻害していると感じるため、コロナにより、十分に感染症対策をしたうえで行事となったり、中止になったりしているから。

学校をより良くするために(自由記述)

【負担解消】

次々に新しい取り組みが増えており、負担に感じる。

教員のゆとり。現状は、やるべきことが多すぎて、勤務時間内でこなせる業務量でないことが問題である。

教員の労働環境の改善(教材研究の時間確保、ゆとりある勤務など)。教職員が疲れてはよい学校にはならないし、よい授業もできない。

定期考査業務は、試験監督だけではなく、作問と採点も含まれる。よって、業務の分担をより平等なものにするという観点から、現行の試験監督回数だけをカウントしてならずやり方でなく、出題回数も含めてカウントしてならずやり方への改善を提案する。このように改善して学校の姿勢を示すことで、学校が欲しい人材をより集めやすくなるという都立高校職員へのプラスの広報的効果も見込めると考える。

Teamsの活用や校務のICT化が進んで業務が効率化すれば、生徒とも余裕をもって接することができると思う。今後は、新カリでの評価方法(成績関連)に関する業務量が膨大になることが予想されるので、準備委員会等を立ち上げて対策することが必要だと思う。

【校内体制等】

教員の連携

来年度以降、新カリキュラムや観点別評価、校務支援システムの導入などの変化が多く、混乱が予想される。今まで以上に組織的な取組が必要になってくるが、「ピンチはチャンス」「1人の1歩よりも100人の1歩」の精神で乗り越えていきたい。

リベラルな考えの管理職が継続することを期待する。

人材の確保と、適切かつ円滑な世代交代。

雰囲気が良いので、継続して色々なことに積極的に取り組んでいく。

学校内での情報の共有、共通理解が必要だと思う。学年、分掌を超えての連携が更に必要になってくるのではと思う。校内のルールについては、だれでもわかるように明文化していくのがよいと思う。

教職員間のさらなる情報共有。固定観念に縛られない生徒のための指導体制。

教科、分掌、学年での年度をまたぐ引き継ぎの時間を3月に確保することが必要。異動があっても十分な準備をして、新担当者が無駄な時間を費やさないようにすることが重要だと考える。

生徒の健康状態の把握についても、学習指導と同じくらい重要なことだと思うので、情報共有を徹底して指導に当たることが必要だと考える。

教科内で情報が止まっていることもあるので、分掌や教科を横断的にまたいで情報を共有することがより必要であると感じる。そのためには、一部の教科や分掌の意見の結果で学校全体にかかわる決定事項がなされることを避けるためにも、企画調整会議へ教科や学年から漏れなく情報を吸い上げ、管理職を含んだ場で議論・決定されることが大切であると感じる。

行事や進路指導を学年、分掌内で完結するのではなく学校全体で取組むという意識改革。

【今後の教育活動】

今後もエビデンスデータに立脚した学校経営計画を策定し実行していくことが必要だと考える。

考査後の時間を有効活用して、キャリア教育も含め、3年間通した総合的な探究学習を構築する。

さらなる進学実績の向上

ただ目標としての大学進学ではなく将来にわたる明確な動機づけができるようなキャリア教育もあってよい。

コロナ禍で、生徒は入学前に描いていた通りには学校生活を送れないでいる。新しい形の学校生活・行事を学校全体で継続的に考えていかなければならない。

入学した生徒が「入学してよかった」と家庭や中学校に伝えるための満足感のある学校生活。授業、行事、部活動のバランスと達成感を味合わせるが必要と感じる。コロナ渦のためか生徒の主体性が発揮できる場が少ないように思う。

古き良き伝統を守っていくべきだと考える。探求、アクティブラーニングよりも、これまで同様、本質的な進学指導を推進していけばそれでよいと考える。教え込み脱却、とよく言われるが、教えるべきことはきちんと教える必要があり、逆にアウトプットのみに偏らないようにすべき。教員は教科の専門性を放棄してはならないと考える。

【執務環境・施設設備】

面談する際にベネッセのシステムを使って、プリントアウトもしたい、となると、自席にしかその環境がなく、自席では三者面談はできない。タイムズパソコンを面談する部屋まで持っていく、回線をつなぎ、でも印刷は不可と非常に不便。面談ブースにパソコン環境があればと思う。

老朽化の進んだ施設の速やかな改善

特別教室の管理(特別教室の管理が曖昧なので管理責任者をはっきりとしたほうが良い)教員のデジタル端末の充実(マスク構想を考えるならば、教員にデジタル端末を用意することが急務)

グラウンドについて、体育祭で足を捻ることによる怪我が多かったことや、ボールの弾みが年々不規則になっていること、また砂埃による生徒および近隣の方の健康への影響も含めて、グラウンドの人工芝化を強く希望したい。

快適な学習環境で学校生活が送れるよう、教育庁・センターに施設の改善要望を引き続き行う。

【生徒指導】

入学後、家庭学習をしなくなる生徒たちへの指導。卒業までにどのように生徒を育てるかを考えていないで、その場その場で周りの状況を見て、生徒指導をしているように見受けられる。根深い問題で、解決は困難か？

進学についての実績は定着してきたと思う。のびのびとした校風は本校の大切な特色と思うが、自由でありながら、自分を律することを維持、向上させていくことが課題かと思う。

大人に対して生徒からするあいさつ 印象が違う

生徒との対話

【進学指導】

進路実績が伸びてゆく中で、今後男女比が女子多数となることが想定される。入学段階で男子比率が落ちないようなアピールをしつつ、女子生徒にはより高い志を持つように指導し、国公立大学合格実績が落ちないように学校一丸となって取り組むことが肝要。

私立でもいいのか、国立にこだわらせるのか、教員内でも温度差を感じる。新カリキュラムや探究学習の在り方についても本当にこれが最適といえるのか悩んでいる。どのような生徒を育てるのか、学校の方向付けをきちんと示してもらいたい。

生徒の置かれた状況を把握し、個々の進路希望実現に向けた取り組みの継続と検証。

【都教育委員会への要望】

学校をよりよくしていくために最も効果的なのは、クラス人数を減らし教員を増員することだとわかっているにも関わらず、そこは知らぬふりをする行政が改心し行動することが必要。

【入選・生徒募集】

例年、推薦入試で入ってきた一部の生徒の学力や素行に問題がある。この度都教委の指導で10%から20%と倍になったが、進学重点校に関しては校長裁量で人数を決定して実情に合わせていかないと、進学実績とは相反する成績不良者向けの対応に終わることになる。

より良い生徒に入学してもらおう(入試問題をより良いものに)。